

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100552		
法人名	社会福祉法人 白富会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 ひまわり園		
所在地	熊本県熊本市東区長嶺東3丁目3-70番地		
自己評価作成日	平成26年7月30日	評価結果市町村受理日	平成26年9月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成26年8月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな住宅街の中に位置しており、周囲も気軽に散歩できる環境にあります。施設の近くには小学校もあり、児童の登下校時や運動場での活動時に子供たちの声が聞こえ、元気な声に入居者の笑顔もほころびます。明るく広いスペースで落ち着いた生活が出来ます。ご家族に対しても入居者お一人々のホームでの生活をブログにてお伝えしています。職員の元気が大切にしながら、入居者お一人々に楽しく目標のある生活が継続出来るよう努め、笑顔でゆとりのあるケアを目指しています。また、認知症通所も共用空間で実施しており、在宅から来られるご利用者様との交流や、同法人が行っている保育園の園児達との交流等も行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

道路に面して設けられた花壇をグループホーム職員と入居者が中心になって管理を行うなど、積極的な取り組みが地域の人々との交流の機会となっている。開所時から行われていた祭りを夏から秋に変更し今回が三回目となるが、職員は案内文を近隣に個別配布することで多くの参加に繋げており、今回の祭りが好天に恵まれ、地域の人々と楽しい交流の時間になるような取り組みが期待される。また、竹細工の得意な職員の作ったそうめん流しによる夏の満喫や、主婦の経験を活かした調理、食材購入による美味しい食事の提供、ブログや『ひまわり通信』も発信されるなど、職員の得意分野が活かされたホーム運営は大いに評価される。職員は認知症の症状の異なる入居者と向き合い、共有を図りながら業務にあたっており、今後も『スマイルライフ』の日常が展開されていくことに期待が持たれる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>笑顔の絶えない施設づくりを基本に掲げ、「スマイルライフ」を職員理念に置き、運営理念を中心に日々取り組んでいます。</p>	<p>職員理念としての『スマイルライフ』を、開設時から大切に引き継ぎ、【あいさつ・表情・言葉づかい・姿勢・身だしなみ】の基本マナー五原則とともに、ホーム内に掲示し意識付けや共有に繋がっている。年度末には理念について検討を行っているが、職員から『スマイルライフ』が最もふさわしく、変更の必要はないとの意見が出され、毎年の継続となっている。入居者・家族・地域の人々にも『スマイルライフ』の支援に全職員で取り組んでいる。</p>	<p>今後も職員理念の『スマイルライフ』の実践に繋がる基本マナーについて、振り返りの機会を持つことで更に職員の意識も変わっていくと思われる。取り組みに期待したい。</p>
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>施設花壇を通じ、施設前を散歩されている方々との交流から、花の手入れ方法指導を受けたり、新しい苗を持って来て頂き一緒に植えたりしています。</p>	<p>施設玄関に設けられた花壇はグループホームの職員と入居者が中心になって管理を行っており、地域の方々との交流の機会に繋がっている。併設施設と合同で開催される秋祭りの開催にあたっては、地域ボランティア(パン・野菜販売)の協力も得られ、職員がチラシを配布したり声掛けにより案内を行っている。また、運営推進会議メンバーでもある自治会長からは、日頃より地域の情報を受けたり、七夕の笹を準備くださるなど好意的な支援に管理者は感謝の言葉を語っている。</p>	<p>地域貢献を兼ね近隣小学校のスポーツ指導者に、短時間の駐車場貸出が行われている。入居者は校庭から聞こえる学童の声を楽しみにされており、今後の交流の機会の足がかりに繋がる取り組みが期待される。</p>
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>施設見学やボランティア活動として施設に来られた方又は実習生に対し時間を取り、認知症ケアでの質問を受けその都度説明しています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	その都度での問題点等を会議の場で検討すると共に、より良い施設運営のアドバイスを受けています。	1階ホールを会場として二ヶ月に一度併設の小規模多機能事業所と合同で開催されている。活動内容・ボランティアの受け入れ状況や研修報告、今後の行事予定についても伝え、その中で外部評価への取り組みや結果が報告されている。また、事故についても説明することで透明性のある会議としている。会議に参加されなかった家族へはいつでも閲覧出来るよう玄関に開示されているが、閲覧状況の確認には至っていない。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時常に連絡を行っています。	行政担当者とは事故発生の報告を行う際や、運営推進会議の内容については毎回、報告書をメールで送りホームの現況を伝えている。また判断に迷うときはその都度相談を行い、改善やサービスの向上に繋げている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待について職員課会議内で勉強会を行い、虐待防止や身体拘束に該当する行為の把握と拘束をしないケアについての認識を深めた。	虐待を含め身体拘束に関する研修会に参加した職員による復講やどういう事が拘束となるのか、事例集の読み合せにより共有を図っている。職員から「こういうことも拘束になるのか！」という意見が出され、入居者の動きを阻むポータブルトイレ設置の仕方やスピーチロックについても、意識を持ってケアにあたることが確認されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修に職員が参加し、その職員からの報告にて虐待防止についての認識を深めた。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議にて権利擁護に関する資料を使い、確認しました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、契約書、重要事項説明書、運営規定を読み合わせ、同意して頂いた後に記名と捺印を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見は箱を入りの少ない場所に設置しており、記入して頂いた内容はスタッフに伝え、改善出来る様にしていると共に、直接希望を言われた場合は、対応できることは即対応しています。	入居者はマンツーマンで関わる中で要望などを出されることが多く、その都度受け入れながら検討している。家族からはホームに対する大きな要望や意見はないが、担当者会議の席でこれからも元気で過ごして欲しい思いや外出への要望などが出されており可能な限り支援に取り組んでいる。また、設置場所にも配慮し、意見箱を置いているが活用には至っていない。この夏開設されたホームのブログ『ひまわり園日記』より入居者の近況が発信されており、家族の安心や信頼関係に繋がっていくことが期待されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の職員会議にて、検討会や意見の収集を行っています。	職員会議を中心に意見や提案が収集されている。昨年度車椅子対応の体重計が購入され、安全な計測と共に職員の負担軽減にも繋がっている。管理者は代表者と連携し、職員の有給休暇取得に努める他、必要に応じて社労士などの専門家による対応など職場環境の整備に努めている。職員の入れ替わりも少なく、入居者・家族に馴染みの関係による支援が展開されている。また、代表者も交えての親睦会は、忌憚のない意見交換が行える場となっており継続されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年間変形労働制から月単位の変形労働制に変えることで、年間の休日が2日増えました。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育委員を中心に定期的な勉強会を行うと共に、安全対策委員会にて、職員から出た日々のヒアリの検証を行い、同時にその職員に書面にてアドバイスをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会等の研修で他施設との情報交換を含めた勉強会に参加しています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様一人ひとりの日々の生活パターンをつかみ、表情や行動、言動等の観察を行い、申し送りやカンファレンス等でスタッフ同士の情報交換を密にとり、ご利用者様に安心した対応が出来る様努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時には、生活状況、健康状態を伝え、必要な支援や相談を行っています。又遠方等で面会に来れないご家族様等には、電話連絡にて近況報告やケア対応の相談を行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や主治医との連携を密に行い、必要としている支援を見極め、対応出来る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に洗濯物を干したり、食事の準備や後片付けを行っています。時にはおやつ作りも一緒に行っています。又、ご利用者様の誕生日には、他のご利用者様と一緒にケーキを作っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族参加行事を企画し、一緒に活動できる機会を設けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者様の兄弟の面会支援や、ご自宅の様子を見に行く対応を行っています。	遠方に住む兄弟の来訪を支援する他、この夏より開始したホームページは、家族や知人など大切な人との関係が途切れない支援に一役かっている。小まめに面会される知人と一緒に自宅の様子を見に帰り、必要品を持ち帰られる入居者もおられる。この他、細かい作業が得意な方に塗り絵を楽しめる環境を整備したり、以前行っていたゲートボールの見学に公園に出かけるなど、得意分野や馴染みの生活を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を理解し、難聴の方や意思疎通が困難な方に関し、テーブル席の位置を工夫するとともに、コミュニケーションの際にご利用者様の間に入り自然な交流が図れる様努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所先が施設や医療機関である場合には、施設での生活状況を含めた情報(フェイスシート・ケアプラン)の写しを渡しその後のケアの参考にして頂きたいと思います。又、退所に向けたその後のご家族からの相談を受け、退所後の受け入れ先を探したり情報提供を行いました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者や家族の意向を取り入れ、ケアプランの作成を行っています。状況次第では、その都度ご家族への連絡相談を行い対応しています。	職員は日々スマイルライフの理念のもと、入居者に関わり思いや意向の把握に努めている。また、家族や状況によっては知人などの関係者からの情報収集も重要であり、担当者会議や来訪時の他、必要に応じ電話連絡を取りながら、本人本位のものとなるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様やご家族等との会話から、情報を得ようと努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り、カンファレンス等を行い、その方自身の情報を各スタッフで共有する様になっています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様の状況を把握し、必要なケアを立案しています。又、介護計画のモニタリングは、毎月実施しており、ご家族に相談が必要な内容がある場合は適宜相談し対応をお願いします。	本人・家族の思いや意向を組み入れたプランを作成し、できるだけ発せられた言葉をプランに記入している。また、家族へ説明する際は、前回と変更した点、再度変わらなかった部分について引き続き取り組みたいことを説明し了承を得ている。見直しについては定期的なモニタリングの開催により基本的に半年ごとや必要に応じ行っている。策定は最終的には計画作成者が行っているが、職員がプランに関わることも重要であるとし、毎月開催するモニタリングの管理は職員によって行われている。	管理者はプランと現場の動きがリンクできていくことを今後の課題としている。ホームには職員の希望によるケアプラン委員が設けられており、今後も職員と計画作成者によって作成されたプランが、入居者・家族を支えるものとして活用されていくことに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各ご利用者様個別に日々の記録を行うと共に、簡素化した文章ではなく、ポイントが明確に分かりやすいPOS方式を取り入れています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限りご家族の急な申し出や受診対応等柔軟に行う様になっています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者様と一緒に食材の買い物に出掛けたり、花壇の整備を一緒に行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族とご利用者様とで病院受診される際には、必要に応じ、前もって情報提供書の作成を行い、直接電話での報告や受診時に持参して頂いています。	入居前からのかかりつけ医を継続する方や協力病院へ変更されたりと希望に応じ、家族の受診を基本に一人暮らし等状況により管理者か看護職員が同行している。家族対応の場合には情報提供書によりスムーズな受診に繋がっている。協力病院の往診時(毎月1回)は結果を家族に報告し共有化を図っている。訪問歯科の利用や毎朝のバイタルチェック及び看護職員とのオンコール体制、かかりつけ医との連携等適切に医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常時、情報交換をしており看護職員が休みの時も必要な時は電話連絡にて指示を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は面会を行い、その際に担当Nsとの情報交換を行っています。退院の際には、入院先との情報交換や退院後の調整を行っています。また、入院時にはその都度、サマリーを作成し提出しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期への支援を見据え、ご家族と相談を行い、関係機関との調整や往診への協力を行っています。	契約時に退去基準を提示し、可能な限り住み慣れたホームで暮らせるよう最大限の支援に努める事を方針として重度化した場合の指針を作成している。“ホームで最期まで、積極的な治療は望まない。介護で静かに…”との家族の思いに応え訪問看護や主治医と連携しながら終末期を支援され、担当職員による思い出作りとしてアルバムが家族に渡されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間の事業計画に毎月の勉強会を決め、行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練を行っています。又、防災委員会を設け、年間の訓練を実施しています。また、訓練の際には、ケアハウスからの応援体制を整えています。	年2回の昼夜想定訓練や防災検討委員会による事例検討及び備品・備蓄等の話し合い、飲料水・ガスコンロ・食糧等を準備し賞味期限等の確認を徹底している。隣接にあるケアハウスとの協力体制は確立し、自主防災訓練としての伝達訓練の他、緊急呼集訓練が予定され、自主防災クラブ・消防団に訓練への参加を依頼している。	防犯や防災に対する危機管理の高さは日常点検に表れている。今後も運営推進会議の中で地域との協力体制について話し合いを継続し、有事に備えられることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各スタッフはご利用者様がお元気な頃の仕事やその時の地位、立場等を把握しており、その方にあった言葉かけを行う様に対応しています。	職員のケア基本となる「マナー五原則」を掲示し、スピーチロックや馴れ合いの言葉使いにその都度職員同士が注意喚起し、名字での呼びかけを基本に一人ひとりの情報や状況により対応している。個人情報保護についてブログを立ち上げたことで再度同意書を交わし、管理者は「利用者さんが私たちに合わせられていることを気づくこと、外での会話にも十分な注意を払う事」を指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各スタッフはご利用者様に日々対応する中で、本人の意向を確認しながら対応する様心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな日課はありますが、その時の気分や体調、ペースを尊重しながら支援を行っています。(特に、食事や入浴)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日一緒に着る服をコーディネートしています。又、外出の際の鏡台を出口付近に設置し活用して頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛付等を手伝って頂いたり、片付けの時には食器の拭きとりと一緒にやっています。	給食委員により業者からの主菜をもとに副菜を決め、検査者の気づきは委員会で検討し献立に反映させている。入居者も食器やおぼんを拭く等出来る事に取り組まれ、イベント食としてそうめん流しや回転寿司等を支援し、おやつのお団子づくり等一緒に楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量を確認しており、飲み物に関しては、ご本人の飲みたい物を聞いて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、入れ歯の方は週2回ポリドントに浸ける様にしています。磨き残しがある場合は介助にて対応し口腔内洗浄用のブラシ使用し対応。又、異常時の早期発見に努めており、必要な際は協力歯科へ対応を依頼しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各ご利用者毎の排尿チェック表を利用し、定時誘導以外にも、その方のパターンを把握し、状況に応じて誘導と付き添いを行っています。	排泄記録によるパターンの把握や尿意・便意はあるが確認の可否をプラン化しており、定時誘導や様子を見ながら声かけし、自立した方でも見守りを行っている。また、昼夜の排泄用品の使い分けや、夜間帯も見守りやトイレ誘導の他、夜間のみポータブルトイレを使用する等歩行状態を見ながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	調理内容に野菜類を多く使用しています。又、水分摂取量の確認を行うとともに、おやつ提供時に乳製品を多く取り入れています。運動に関しては、体操や散歩を取り入れています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日中ではありますが、その都度ご利用者様の意向や状況をふまえ、入浴時間を柔軟に設定しています。又、季節行事の中で柚子湯や菖蒲湯も取り入れています。普段は入浴剤も使用しています。	入居者の気分を考慮し週3回を基本に午前・午後の時間帯での入浴とし、身体状況に応じ2名体制で介助している。入浴拒否者には強制することなく時にはドライシャンプーや清拭により清潔保持に努め、ラジカセをかけたり、入浴剤や柚子・菖蒲等を取り入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日のご利用者様の決定にて入眠を促したり、その日眠くない時は一緒に話しながらテレビを見たりし、落ち着かれるまで一緒に過ごしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルに服薬リストを綴じており、薬の服薬目的や副作用について各スタッフが理解出来る様に工夫しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後の食器拭き等、ご利用者様自身での活動に対し対応しています。又、コミュニケーションの中から、ご利用者様の意向も取り入れながら、楽しみや気分転換の時間を設けています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望時や気分転換を目的とし、施設周辺を付き添い散歩をおこなったり、全体での気分転換はベランダにておやつを食べたり、花壇前での花の観察を行っています。又、ご利用者様の友人の方が気分転換に外出や外泊等の協力もして頂いています。	2階にあるホームではあるが花壇での花植えや散歩等による気分転換外食等外出の機会を作っている。ベランダでのおやつタイム、季節毎の植木市・花見等に出かけたり、飛行機が好きだという入居者に空港やイルミネーション見学等希望に応じた外出も支援している。また、受診がてらの外食や墓参等家族の協力が得られている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人での金銭管理は困難な方ばかりなので、施設にて管理しており、園外行事等の際にご利用者様の買いたい物を選んで頂き、スタッフが買い物の対応をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望により、家族に連絡出来る様、対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは天井が高いため圧迫感がなく、ベランダは南向きで開放感があります。近くには小学校もあり、元気な子ども達の声が聞こえる環境です。施設の畑もあり、畑作業が好きな方は水やりや草取り、収穫の作業をされています。	ベランダには花や野菜を育て、壁面を利用した掲示物に入居者の日常を見る事ができるホーム内である。入居者と認知デイ利用者が一日を共に過ごすリビングは空調管理の徹底や掃除が行き届き、特に温湿度計も見えない工夫を行う等入居者の状況に配慮した環境である。職員が持ち寄った花や果実に季節感が溢れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内には約3か所にソファを設置しベランダにはベンチを置いて好きな場所が利用出来る様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファ、タンス、写真等自宅にあったなじみの物を自由に持ち込んで安心出来る環境の整備をして頂いている。	各居室は担当職員の特技が生かされた表札や花が活けられ、位牌や家族写真・タンス等馴染みのものが持ち込まれている。家族の相談を受けテレビの持ち込みを検討したり、何も置かないようホーム側で管理している居室等もある。担当職員による衣類の整理や掃除等の他、個々の状況を把握しながら居室の環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各トイレ、通路、浴室等に手すりを設置し、すべてバリアフリーになっています。		